

平成25年度日本学士院賞

平成25年3月12日開催の第1067回総会において、日本学士院賞9件9名（うち2件2名には恩賜賞を重ねて授与）を決定しました。第103回となる授賞式は6月に挙行される予定です。

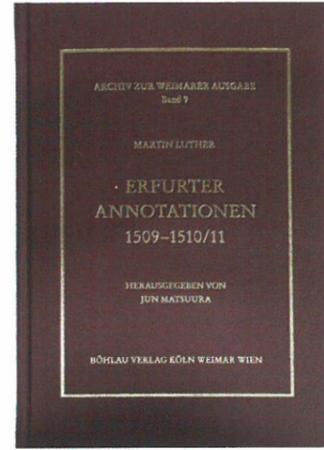
恩賜賞・日本学士院賞

Martin Luther: Erfurter Annotationen 1509-1510/11

（『マルティン・ルター：エルフルト期注記集 1509-1510/11』）

松浦 純（まつうら じゅん）

東京大学大学院人文社会系研究科教授



松浦氏の著書 *Martin Luther: Erfurter Annotationen 1509-1510/11* (Köln/Weimar/Wien: Böhlau Verlag 2009)

ルター最初期（アウグスティヌス会エルフルト修道院・エルフルト大学神学部講師期、1509-11年）現存全自筆資料（古代教父の著作、中世神学書等への行間・欄外注記、一部は自ら発見）の校訂・注解・解説により、ルター研究の基礎を築き直し、国際的に高い評価を得た。

恩賜賞・日本学士院賞

「強相関電子材料の物性研究」

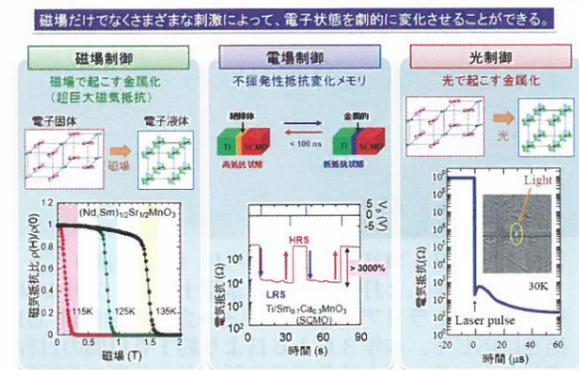
十倉 好紀（とくら よしのり）

東京大学大学院工学系研究科教授、理化学研究所基幹研究所グループディレクター、産業技術総合研究所フェロー



通常の物質では見られない性質を示す「強相関電子材料」という特殊な材料を見出し、量子物性科学を創成した。その開発原理は、基礎科学と産業応用への両面で多大な貢献をした。

強相関電子が作る「相」を制御



日本学士院賞

「中国文学理論の研究」

興膳 宏（こうぜん ひろし）

東方学会理事長、京都大学名誉教授

劉勰の『文心雕龍』、鍾嶸の『詩品』の二つの作品を軸として、中国の文学理論史について系統的に研究し、少なからぬ創見を提示した。特に多くの著作を比較して、その間の異同を見出す洞察にすぐれている。



興膳氏の著書『新版 中国の文学理論』（清文堂出版、2008年11月）、『中国文学理論の展開』（清文堂出版、2008年3月）

日本学士院賞

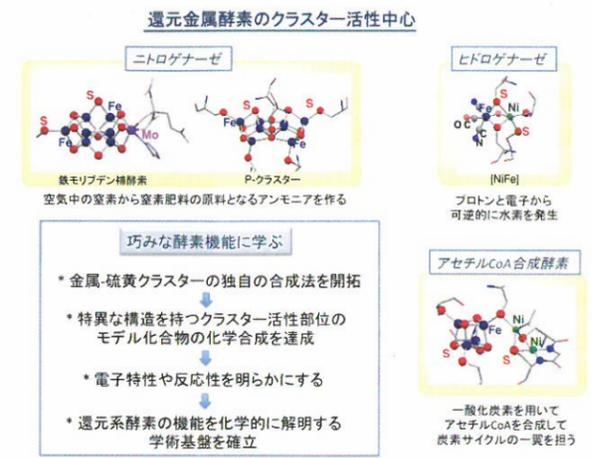
「還元系金属酵素活性中心の生物無機化学に関する研究」

巽 和行（たつみ かずゆき）

名古屋大学物質科学国際研究センター長・教授

ニトロゲナーゼやヒドロゲナーゼ

などの還元系金属酵素の活性中心に存在する複雑、かつ不安定な様々な遷移金属硫黄クラスターのモデル錯体を世界に先駆けて合成し、還元系金属酵素に凝縮された自然の巧みな仕組みを解明する端緒を拓いた。



日本学士院賞

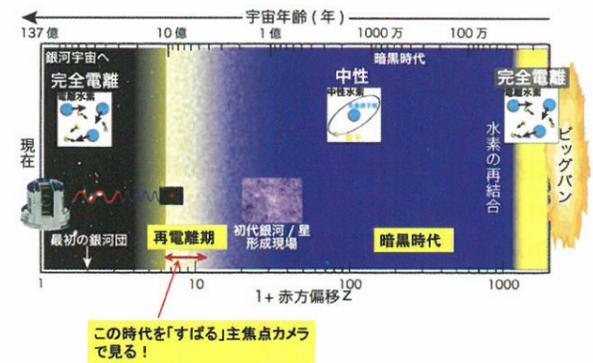
「初期宇宙の研究」

家 正則（いえ まさのり）

自然科学研究機構国立天文台教授、東京大学大学院理学系研究科教授、総合研究大学院大学物理科学研究科教授



「すばる」望遠鏡を駆使し、独自に開発した特殊フィルターを用いて、世界に先駆けて129億光年彼方までの最遠銀河を次々発見し、暗黒宇宙時代の終わり即ち宇宙再電離の完了時期をビッグバンからおおよそ8~9億年後と特定することに成功した。



日本学士院賞

「エルビウム光ファイバ増幅器の実現とそれを用いた光通信の高度化に関する貢献」

中沢 正隆（なかざわ まさたか）

東北大学電気通信研究所長・教授、同大学国際高等研究教育機構長、同大学総長補佐

半導体レーザー励起エルビウム添加光ファイバ増幅器を世界で初めて実現した。これにより、高性能広帯域の超多重光通信の中継が可能になり、長距離海底ケーブルを含むグローバルな光通信網が実用化され、情報通信インターネットの発展に大きく貢献した。

